プレスリリース

G.W は江戸時代後期の民家で「映画と街の記憶」が交差する アートを楽しもう

鎌倉市川喜多映画記念館敷地内に建つ江戸後期の民家「旧川喜多邸別邸（旧和辻邸）」は、かつて哲学者・和辻哲郎が秦野から練馬に移築し、1938 年から亡くなる 1960 年まで自宅として暮らした家です。和辻の死後、1961 年に練馬から鎌倉に再び移築され、川喜多長政・かしこ夫妻が国内外から訪れる映画人をもてなす場として使用しました。ここには、フランスの二枚目俳優アラン・ドロンやフランソワ・トリュフォー監督が訪れ、ヴィム・ヴェンダース監督はこの場所で映画の一場面を撮影しました。

鎌倉市の景観重要建造物に指定されているこの民家は、年に数回のみ公開しています。今回の特別公開では建物に上がって家の中をじっくりご覧いただけると同時に、フランスの写真家シャンタル・ストマンによる作品展「Ōmecittà（オウメチッタ）」をお楽しみください。

旧川喜多邸別邸（旧和辻邸）特別公開 / シャンタル・ストマン「Ōmecittà（オウメチッタ）」

2024 年 5 月 1 日（水）－5 月 5 日（日・祝）10：00 ～ 16：00

会場：鎌倉市川喜多映画記念館敷地内、旧川喜多邸別邸（旧和辻邸）

料金：一般 200 円（小・中学生 100 円）　＊企画展「映画館のエトセトラ」のチケットでご覧いただけます。

◆Ōmecittà（オウメチッタ）とは？◆

★　シャンタル・ストマン（Chantal Stoman）は、パリを拠点に《人》と《場所》の親密な関係性を通して、《歴史・時間・記憶》を喚起させる作品制作を行う写真家です。

★　シャンタルは 2017 年、東京の西端に位置する小さな町「青梅」と出会います。看板絵師・久保板観（1941-2018）の手による映画の絵看板が町のあちこちに置かれ、人々の日常に溶け込みながら、映画の黄金時代の記憶を呼び起こす青梅に魅せられ、写真と映像作品からなる「Ōmecittà（オウメチッタ）」を制作しました。

★　2019 年の台風被害により絵看板の多くは撤去されましたが、青梅ではその後に新しく映画館がオープンするなど、町と映画の親密さは今も息づいています。当館では、4 月 13 日～ 7 月 7 日に企画展「映画館のエトセトラ」と題し、時代とともに変化してきた「映画館」という場所の魅力を再発見する展覧会を開催します。「Ōmecittà（オウメチッタ」はその関連イベントとして実施するもので、150 年以上前の建物である旧川喜多邸別邸（旧和辻邸）で、時間と記憶が交差する「Ōmecittà（オウメチッタ」を約 30 点の写真作品と約 1 時間のドキュメンタリー作品を通してご紹介します。

右上から左回りに
「Ōmecittà（オウメチッタ」作品画像
シャンタル・ストマン © Gil Lefauconnier
旧川喜多邸別邸（旧和辻邸）
「Ōmecittà（オウメチッタ」メイン画像
※画像はダウンロードしてご使用いただけます。

お問い合わせ：鎌倉市川喜多映画記念館（担当：阿部）
〒248-0005　神奈川県鎌倉市雪ノ下 2-2-12
TEL : 0467-23-2500 ／ FAX : 0467-23-2503
MAIL : info@kamakura-kawakita.org
HP : https://kamakura-kawakita.org
Kamakura City Kawakita Film Museum
鎌倉市川喜多映画記念館